



西林寺境内 雪景色



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば
時の流れに
心せよ
「まだ」は忽ち
「もう」となる

永代合同墓「樹心廟」のご案内

西林寺境内に納骨堂併設の永代合同墓「樹心廟」が4月に完成予定です。

お墓の維持やご遺骨の管理に将来的に不安を抱かれたり、お墓が山の中腹にあってお参りに困難であったり、親族・有縁の皆さまと同じところに分骨したい等、分骨も全骨も多様なご要望に対応できるものです。

ご遺骨は、西林寺境内に永代に亘ってお預かりし、合同の法要も営みます。

大切な家族を亡くされた悲しみをご縁として、自身の人生と向き合い、み教えを依り所に「俱会

一処」の

歩みを進

めていた

だくこと

を念願し

ます。

詳細は

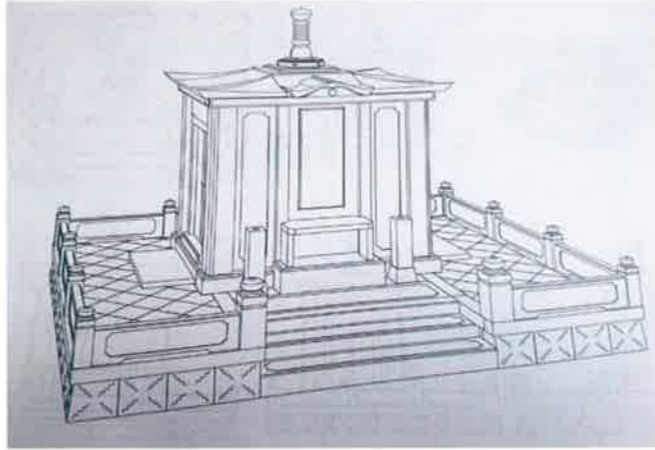
次号『西

林寺だよ

り』にて

お知らせ

します。



「樹心廟」完成予想図

本願寺専如門主法統継承及び西林寺客殿修復記念法要のご案内

左記の日程で修行いたします。またとないご縁です。万障繰り合わせてご参集いただきますようご案内いたします。

3月28日(土) 13時より

・帰敬式

・記念講演

講師 武蔵野大学名誉教授

山崎龍明師

29日(日) 10時より

・稚児行列

・記念法要

・記念講演

講師 武蔵野大学名誉教授

山崎龍明師

※29日(日)はご希望の方に昼食の弁当を用意いたします。

中仏通信同窓会坂分会報告

10月22日(火)宝海寺の永代経法座昼席にお参りして、ご講師の朝枝暁範先生を囲み懇談会を行いました。朝枝先生は3月の春季彼岸会に西林寺にも出講されます。



法座案内

御正忌報恩講

一月 十五日(水) 昼席より

十七日(金) 朝席まで

御伝鈔拝読 十五日夜席(上巻)

十六日昼席(下巻)

講師 坂町小屋浦

西昭寺 河野法誓師

御紐解法座

二月 十五日(土) 昼席より

十七日(月) 朝席まで

講師 山口県下松市

勝賢寺 森田義見師

春季彼岸会

三月 十九日(木) 昼席より

二十一日(土) 朝席まで

講師 山県郡北広島町

本立寺 朝枝暁範師

朝席7:00~・昼席13:15~・夜席19:30~

編集後記

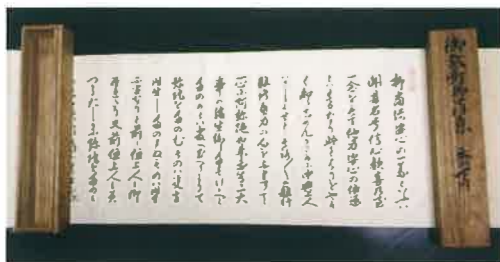
今年はずいぶん暖冬といわれますが、春が待ち遠しい気持ちは例年と変わりませぬ。今年は一昨年の豪雨災害で被災した町内の川沿いの張出歩道も少しずつ復旧されてゆくことでしようし、東京ではオリンピックも開催されます。災害のない、心踊る一年になりますように。

普蔵勸学と大瀛和上(3)

三業惑乱では、従来の浄土真宗の法義を受け継ぐ大瀛側は古義派、学林側が新義派と呼ばれました。本山のみならず地方の末寺も巻き込んだ大混乱となり、転派する寺院もありました。

もともとは法義上の問題でしたが、享和3(1803)年には新義派の数百名が本山に乗り込み、それに対して古義派が学林を占拠する大騒動に発展し、とうとう幕府の裁断を仰ぐこととなります。

大瀛は古義派の代表として、普蔵に付き添われ、京都所司代として江戸寺社奉行所まで赴き、新義派の代表である智洞と論争を繰り返しますが、結核が悪化し、裁決を待たず、文化元(1804)年に逝去します。翌年に幕府の裁定が下り、古義派の主張する法義に落ち着きますが、本願寺も百日間閉門を命じられる厳しいものでした。そして翌文化3(1806)年、本如宗主の御裁断の御消息が發布されて、この騒動は終結します。



御消息の御裁断



仏教婦人会 主催 報恩講

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご法事で、真宗門徒にとって1年でもっとも大切な行事です。今年も仏教婦人会の報恩講法座が、11月24日(日)から26日(火)まで、ご住職をご講師に勤まりました。

初日には、西林寺門徒と、他寺門徒の皆さま合わせて約120人にお参りいただき、前日から準備した手作りのお齋を召しあがっていただきました。

ご住職のご法話を聴聞させていただき、親鸞聖人のご遺徳を偲び、ご恩に感謝すると同時に、朝夕ご仏前に座し、手を合わす身にお育ていただくとともに、ご縁となりました。

年頭に当たって、このことを改めて心にとどめて日々を過ごしたいものです。「杖のこ」とば、「時の流れに心せよ」(まだ)は忽ち(もう)となる」はいつもうなずかされます。まだ今年も始まったばかりだと油断して時間を浪費していると、一年はあっという間に過ぎてゆきます。一年だけなら取返しもつきますが、一年を空しく過ごすことは、一生を空しく過ごす生き方になりかねません。ましてや老少不定とお聞かせいただいている通り、いついのち終わるかもしれない無常のいのちをいただいているのです。平均寿命まで生きることで保証はどこにもありません。



境内 松の木剪定作業

11月10日(木)から約10日間、西林寺境内の松の木剪定作業をおこないました。秋の剪定作業は大変時間を要しました。

仏教壮年会行事予定

- 一月 十日(金) 新年互礼会
- 一月 十三日(月) ご正忌前おみがき
- 二月 六日(木) 安芸北組研修会
- 二月 二十九日(土) 安芸教区公開講座

仏教壮年会 あれこれ

坂町三カ寺仏教壮年会交流会



仏教婦人会行事案内

- 一月十三日(月) 御正忌前おみがき
- 二月 九日(日) ダーナの日
- 三月二・三日(月・火) 仏奉仕団本山参拝

安芸北組グラウンドゴルフ大会

10月17日(日)64名参加のなか、西林寺からは6名が参加しました。西昭寺本堂にてお勤め後、小屋浦小学校でグラウンドゴルフを行い、小屋浦集会所で表彰式・懇親会を行いました。来年度から坂町三カ寺親睦グラウンドゴルフ大会を開催することになり、第1回目は西林寺が担当になりました。



聞思録(もんしりく)

京都の街を歩いていると、あるお寺の掲示板に「いま私が抱える 悲しみや苦しみを私よりも先に 抱きながら 生きた人たちがいる」という言葉に出会いました。

人生はどうにもならない深い悲しみや大きな困難に襲われることがあります。「なぜ、私だけ？」と思うこともあるでしょう。しかし、私よりも先に同じような悲しみや困難を抱えて、それをよく乗り越えてゆかれた人たちがいます。その人たちは何を依り所に、それら乗り越えてゆかれたのでしょうか。

お寺の掲示板に「あっ 危ない！ 今の私の 依り所」という言葉を張り出して、私たちが依って立つものは確かなものでしょうか。仏教は地位や財産や家族さえも、一時的に状況を好転させてくれる依り所にはなっても、それはどこまでも局所的表面的な解決にしか過ぎず、本当の依り所にはなり得ないことを教えます。普段なら死に至る病に侵された時、仮に地位や財産によって、たまたま快方に向かっても、死から逃れることができただけではありません。少し先延ばしできただけです。現実を引き受け、なおいただいたいのちを生き抜くことができる心を育くむ確かな依って立つ場合は、仏法しかありません。

また、仏法を依り所に生きるとは、何も深い悲しみや大きな困難を乗り越えるためだけにありません。ここにいのちをいただいた意味(人界受生の所詮)、これに確かな答えを見出すことこそ、何よりも大切なことです。それは同時に、いつ死しても「おまかせできる(大丈夫といえる)」いのちに育てられることでもあります。仏法を依り所に生きるとは、苦惱多き人生の中で、悩み、途方に暮れるとき、お念仏もうすなかに、仏さまからの促しを聞いてゆくことです。先人が示してくださった確かな道筋があるのです。そこに生きる方向をあわせて、空過しない一年の歩みを進めたいものです。

仏教壮年会結成50周年

西林寺仏教壮年会が結成され、50年を迎えました。仏教壮年会は昭和52(1977)年の安芸北組仏教青年会の発足に先立つこと8年。昭和44年に前住職(庫蔵師)の声掛けで、勉強会として約30名で活動がスタートしました。会員数は若干の増減の中、現在も27名で活動しています。

例年の行事は、毎月の例会をはじめ、総会・法座の聴聞と講師を囲んでの懇親会や納涼会・忘年会・境内松の剪定・除夜の鐘のお手伝い・仏具のお磨き、また安芸教区や安芸北組の各種行事の企画等、活発に行われています。近年は5年を節目に記念事業を行い、35周年には町内40カ所に西林寺専用の掲示板を設置して、掲示伝道や法座の案内等に幅広く活用しています。

歴代の会長

- 中東義雄氏
- 中村繁実氏
- 高木道忠氏
- 山本政信氏
- 大廻邦雄氏



蓮華の会報告

10月24日(木) 永代経法座昼席終了後、門信徒会館にて「お寺カフェ」を開催しました。多数の参集いただきありがとうございました。